

明るく伸びやかな環境で安心して学ぶ 二丈中の宝

「子どもたちが素直で無邪気」「穏やかですね」「廊下に（先生の）どなり声が響くことはほとんどないかな」一。教師から保護者まで、異口同音に温かなイメージが語られる糸島市立二丈中学校。深江小学校と一貴山小学校から集まる子どもたちは全校で200名程度。子ども同士はもちろんのこと、学年を問わず生徒と先生も全員顔見知りです。体育祭でのエイサー演舞、文化祭での全校合唱などの行事や、全校縦割りで行う日々の掃除の時間でも、3年生が主体となって全校生徒が力を合わせ、一生懸命に取り組む姿が印象的です。



「写真（左） 建設当時、全国でも最大規模の太陽光パネルを載せた白亜の校舎」

「写真（右） 今日安心して学べることに感謝して、校門で一礼して入る子どもたち」

● 地域に温かく見守られ、明るくゆとりある校舎に恵まれて

平成29年に創立70周年を迎えた二丈中学校。「設立当時から、地域の教育への思いは熱く、校舎や運動場への土地の提供がスムーズで瞬く間に竣工、完成に至ったようです。記念誌編纂にも多大な協力があり、今も地域の支えがあって成り立つ学校です。子どもたちの方ももっと地域を知るために、4月には二丈地区を歩く歓迎鍛錬遠足を行っています」と古藤浩二校長は話します。

現在の校舎は平成14年に新しく建て替えられました。大規模な太陽光パネルの設置や雨水利用システムを取り入れ、子どもたちは、日々電光掲示板に映る発電量や水の大切さを実感しています。大きく設計された窓からは、遠く背振の山並みや広々とした田畑を一望。教室やそれと同じくらいの幅がある廊下には、明るい陽が差し込みます。その廊下をカニが我が物顔でうろうろしているのも、豊かな田畑に囲まれた二丈中学校ならではの景色です。中庭は口の字型に囲まれたウッドデッキで、子どもたちは授業の合間に友達と語らったり日向ぼっこをしたり。ほっと一息つける「学校の中で一番のお気に入り」との声もある場所です。



「写真（左） 広々とした廊下と教室に大きな窓から日が差し込む校舎」

「写真（右） 雨水を集めるためにウッドデッキとなっているおしゃれな中庭」

● きめ細かな対応ができる小規模校ならではの魅力

二丈中学校では、各学期に1回、個別の教育相談の時間があります。受験も控える多感な時期を過ごす中学生にとって、なんでも相談できる大切な機会。学年を問わず、先生と生徒はみな顔見知りなので、担任だけではなく、相談したい先生を第3希望まで挙げて、じっくりと話を聞いてもらえます。「私？」と喜びの指名を受ける先生もおり「生徒にとっても色んな大人と話せるいい機会」となっています。

秋の文化祭では、各クラスの合唱コンクールと、70周年式典を契機に始まった全校合唱があります。各クラスでの合唱後、並んで座っていた生徒が順々に演壇に並びます。全校生徒の迫力ある美しいハーモニーには、いつの間にか声変わりした力強い男性パートも加わります。日々の小さな成長の積み重ねを目の当たりにし、目頭が熱くなる観客も少なくありません。平成30年度の文化祭では、最後を締めくくる吹奏楽部の演奏に合わせて、特別ゲストの校長先生がBEGINの「島人ぬ宝」を歌いました。歌が始まると、子どもたちが次々と立ち上がりほぼ全員が大きな輪になって踊るという微笑ましい風景が。「素直」「穏やか」だけではない、二丈中学校生の茶目っ気たっぷりな様子が垣間見られます。



「写真（左） 広々と明るい教室でグループになって意見交換をする授業」



「写真（右） 文化祭ラストに次々と立ち上がり踊りだす二丈中学生」

● 「地域と学校」、「小学校と中学校」の連携プレーが活発

コミュニティ・スクールの取り組みでは、地域と合同の海岸清掃や防災訓練を行い、積極的に地域貢献活動を展開しています。また、小学校と中学校の連携にも力を入れています。中学校への進学を前に「アプローチレッスン」と称して、深江小学校と一貴山小学校の6年生が中学校で授業体験をします。春から共に学ぶ2校の生徒が初めての顔合わせ。はじめはぎこちない様子ですが、グループになって授業を一緒に受けるうちに徐々に打ち解けていきます。

一足早く受験が終わった3年生が、小学校を訪れる小中交流学習会もあります。各班に中学生が一人ずつ入り、持参したアルバムや教科書を広げると、6年生は身を乗り出して次々と質問を投げかけます。和気あいあいとした雰囲気の中、中学校生活への具体的な話を聞き、新生活への期待も膨らみます。

小学校の環境整備作業に、中学生が応援にくることもあります。小学生の頃より身長もぐっと伸び、力強く溝の泥をあげる様子に、「ついこの間まで一緒に校庭を駆け回っていたのに、頼もしいですね。我が子もすぐこんなになるんだなあ」と感慨深げな保護者も。地域の中で見られる中学生の姿に、親子共々に「中1ギャップ」が解消され、安心感があります。



「写真（左） 地域の方々に交じり深江海岸の清掃に励む」



「写真（右） 深江、一貴山入り混じって緊張の面持ちで授業体験に臨む」

● PTA 活動が派生して…子どものおかげで広がる大人の世界

「保護者が協力的で何でも相談できます」と先生。「やっぱり先生がいいから、うちの学校いいんだと思う」と保護者。そんなかけあいを繰り返し広げる PTA の活動に、「二丈中おやじの会」があります。「授業参観などでは、お母さんの姿は多くみられるけれど親父の姿は少ないのが現状。中学校時代は子どもと共に過ごせる最後の時期です。多感なこの時期の子どもたちにとっても親父の存在は重要です」との勧誘から始まるこの会。「20 年は続いているのでは」と言われる伝統ある会です。主な活動は、文化祭でのカレー販売と夏休み中に行われるナイトハイクの主催です。

保護者には農業関係者も多く、文化祭で作るのは二丈産の食材にこだわった、その名も「二丈だけのカレー」。二丈校区南側に雄大にそびえる二丈岳（にじょうだけ）と、「二丈だけでしか食べられないよ」と遊び心をかけたネーミングで、二丈の恵みを大いに生かしたカレーです。

ナイトハイクは平成 30 年で第 13 回を迎えました。随所で見守る親父たちのサポートのもと、夜 9 時に中学校を出発し、子どもたちは往復 20km の道のりを歩きます。夜中 12 時ころに到着する志摩地区の引津運動公園では、糸島市の移動式天文台で星の観察を楽しんだり、地面に寝転んで流れ星を探したり。思い思いに過ごしお弁当を食べ、いざ帰路につきます。任意参加にもかかわらず、一緒に歩く先生や運営協力の保護者含め毎年 120 名ほどの参加があります。子どもたちにとって、友との真夜中の遠足の高揚感や達成感は得難い思い出となります。一方親父たちも、真夜中の遠足、という男親目線ならではのイベントを力を合わせて実現させます。月 1 回、多い時は 2 回と開かれる会合では、子どものこと、仕事のこと、家庭のことと話題は多岐にわたります。「職種、利害関係を越えて話せる親友ができておわるんです」と代表の奈須泰孝さんはにっこりと笑います。子どものおかげで世界が広がり、人生がますます充実しているのがありありと感じられました。



「写真（左） 会合を重ね生み出した親父特製カレー ジビエが入ることも」



「写真（右） 恒例となったナイトハイクで親父の出番と張り切る親父たち」

予備写真

